

品川支部

令和四年1月1日発行
〒141-0022
品川区東五反田1-8-5
Tel. 3442-7075

1月

天理教品川支部（豊英分教会内） 発行責任者 栗原薫 編集 支部編集部

明けましておめでとうございます 今年も宜しくお願い致します



立教百八十五年



☆支部行事のお知らせ

・支部例会一月三十日(二頁参照)

・今回は昨年引き続き開催の際は弁当をお配りさせていただきます

・尚、コロナの状況により変更もあります

・幹事会会場は豊英分教会に変更

・二年ぶりの初幹事会で食事会場は後日連絡

・在宅センターひのきしん

・今月から再開致します お手伝い頂ける方は九時半からです。宜しくお願い致します

・婦人会の初例会はコロナの様子で後日連絡と致します

・神名流しは二月一日からの再開となります

☆教務支庁からのお知らせ

・染井墓地のからみ煉瓦の塀、老朽化で解体へ

カラミ煉瓦は、鉱石から銅や銀などの金属を取り出す時に出る、不純物の、鉱滓(こうさい)を活用するため鑄型で固められたもので、赤れんがの倍の重さが有り土台等に使われたが、現在では第一次大戦、大震災等の大禍にも耐え、東京では殆ど残っていない貴重な物とのことです。文化価値も考慮して、まずは危険度の高いさんさい寮との隣接部の解体から始めます

・本部、コロナ終息願いのおつとめ

・昨年からの毎月一日の正午に勤められています
・コロナ終息願いのおつとめは一月は五日の正午に執り行われるとのことです。

立教185年支部例会へお誘い

品川支部では毎月会場を替え、月末に例会を開催しています。支部内にお住まいの教友のコミュニケーションの場に参加をお待ちしています。変更を含め毎月の会場は支部報に詳細が載りますので宜しくご参加下さい。座りづとめ・よろづよ・当月の下りのおつとめと当該教会長のお話で十一時から一時間、その後弁当の用意もあります

立教185年支部例会の予定

1月30日(日)	初例会	本荏大教会
2月28日(月)	例会	南泰分教会
3月30日(水)	例会	櫻京分教会
(4月は全教一斉ひのきしんデイレ九十周年で有りません)		
5月30日(月)	例会	本大崎分教会
6月30日(木)	例会	鶴平分教会
7月21日(木)	例会	豊英分教会
8月30日(火)	例会	本品分教会
9月30日(金)	例会	三ツ木分教会
10月30日(日)	総会	水豊田分教会
11月30日(水)	例会	都南分教会
12月21日(水)	納例会	日本橋大教会

拠点教会	新年号	12日号	19日号	26日号
日本橋	配送済	19日に合併	手配り	手配り
本 荏	配送済	19日に合併	手配り	手配り
都 南	配送済	19日に合併	手配り	手配り
三ツ木	配送済	19日に合併	直 送	手配り
水豊田	配送済	19日に合併	手配り	手配り

時報手配り一月予定

品川支部例会

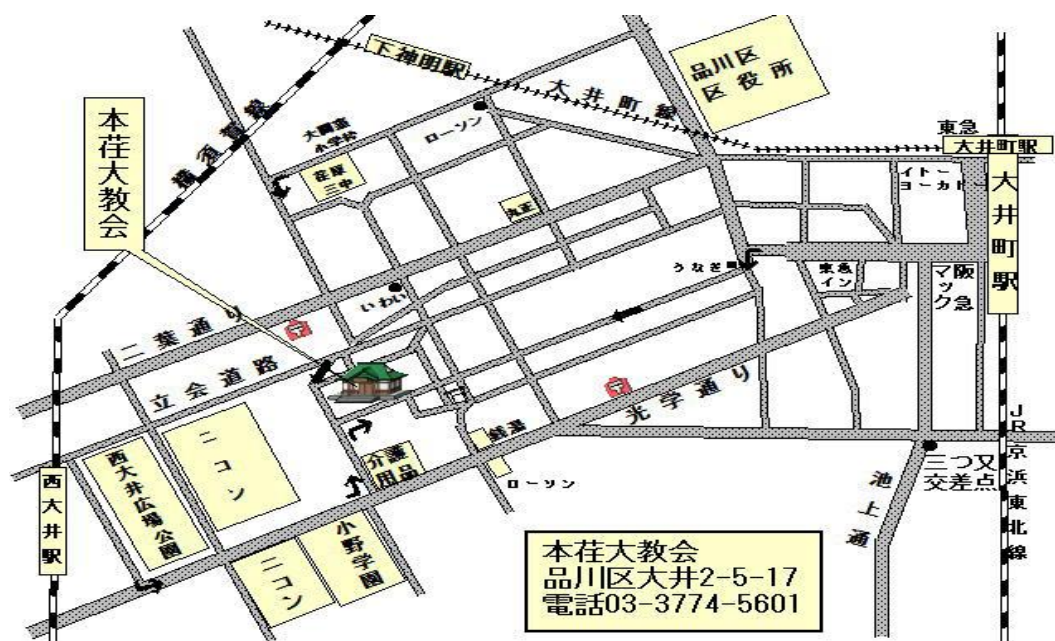
令和四年1月30日 (日) 11時開始

場所 本荏大教会

(品川区大井2丁目5-17)

内容 おつとめよろづよ八首 1下り目 東京教区、支部連絡事項 当該本荏大教会長 挨拶 昼食の弁当を用意頂いてます

*各教会の方のほかどなたでも (白足袋ハッピー着用)



本荏大教会
品川区大井2-5-17
電話03-3774-5601

寅年の今年は

豊英分教会



明けて

おめでどう御座います

今年も品川支部が一層お役に立てますよう、役職一同頑張りますので宜しくお願い致します

正月号は好例で干支に因んだお話をさせて頂きます今年壬寅(みずのえと)の年と言うことで、「壬」は十干では九番目にあたり「水の兄(陽)」とも表します壬の字の形から、土の下で芽が膨んで土がぐんと盛り上がっている様子で次の生命を育む準備の時期を表しています。陰陽で「陽」は激しいとか大きいといった意味で「壬」は、厳冬、沈滞から水の方でまもなく芽吹く時期といったことになり「寅」は十二支の3番目で誕生を表し、強く大きく成長するといったことを表しています

六十年に一回の「壬」と「寅」は、「相生」と呼ばれる理想的な組み合わせで、「壬」が「寅」を補完し強化する関係となります。更に三十六年ぶりの「五黄の虎」と強い運気が重なります。この事から今年、「陽氣を孕み、春の胎動を助く」、冬が厳しいほど春の芽吹きは生命力に溢れ、華々しく生まれることを表していると言われています

何かコロナで永く沈滞していた時から、ここから一気に新しく大いに成長出来るような良い響きの年ですね。では、お道の方角の教えから今年を見てみましょう寅年の方角は東北を南側に超した位置に当たります十柱の神様では「たいしょく天命」様(切ること一切の守護)を少し過ぎ、「くもよみ命」様(飲み食い出入り水気上げ下げの守護)に近づくところになります。このような位置にあたる今年には永年培ってきた物が役目を果たした事だったり

悩まされていた問題を切って頂く事により、そこからの栄養を頂いて満を期して次の世代の責を負った新しい芽生えが又始まって行くと言う、大変力強い年回りであると感じさせて頂く事が出来ると思うのであります。こうしてみると、二年を超す新型コロナウイルスで世界的に大きな災禍と疲弊をもたらした落ち込んでいたこの時期に、昨年お道でも全体の教会数の一割五分を超える教会名称のお戻しを敢行される大節がありました。

それは年回りが成せる業でもあるのかと思えるのです。千支に加え九星(今年五黄土星)までが重なる年回りは百八十年に一度となります。お道が今年立教百八十五年と言うことですから、前回は立教五年と言うことになり、お戻しがあつた昨年の百八十年前は教祖在世時代の書によりますと、なんと教祖が屋敷を売り払えと仰せられ、夫善兵衛様を初め神様の思惑が判らない

多くの周りの者が狐憑きと呼び、教祖様の体から狐を退散させ様との大きな節の時期と一致するのです。反転、そこからお道の大きな飛躍は皆さんの良く知るところであります。さて、今年を良い年にするにはと言う事ですが、切ること一切の守護を頂ける「たいしょく天命」様と良い循環を守護下さる「くもよみ命」様のお働きをいかに頂けるかに掛かって参ります。先人の悟りからほりこりて言え「よく」又「うらみ」がそれぞれ命様に充てられる事が多いようですので、欲を忘れて内なる悩みや悪因縁を切つて頂き、恨みを無くし良い循環で力強く新しい一歩を踏み出すと言う事を胸に置いて一年を過ごせればと思う次第です。是非、この新たな年が貴方にとって素晴らしい発展の年になりますよう願っております

支部長 栗原 薫

